

**5年B組**

**新聞社の人**

**辻本郁夫**

## 1 単元について

### (1) 社会科を通してめざす学習文化

「仲間と磨き合い、高め合う 学級づくり」これが私が4月に立てた目標である。ここでの高め合あうとは、学習意欲であったり、学習に向かう姿勢であったり、学習の質である。子どもは認め合い、支え合い、励まし合う学級集団によって自分の持ち味を発揮し自分を高めていくものである。そのために各教科・領域の学習を通して学級づくりを行ってきた。子どもが支持的風土のある学級において主体的に学習に取り組むことができる。子どもが主体的に学習を行ってけるように望むと合わせ、主体的な学習が展開できるような学習の場を子ども達に保障したいと願う。さて、社会科部では本年度のテーマを

追求し続ける子どもを育てるひとり学習の充実

とした。このテーマに迫るための要因として学習を作り出す条件を考えなければならない。そのための条件として、教科提案にもあるように

- ・対象とかかわることで一人ひとりのその子に応じた問題意識がもてる学習
- ・問題を解決しようと対象に働きかけていく中でわりきれない思いが生まれる学習
- ・人々の生活が人間らしい充実したものになることを願う子が育つ学習

の3点を考えた。

これらの学習対象と向かい合いながら社会科の学習がスタートする訳であるが、絶えず主体的な学習が維持できるように心がけ展開していくことが必要となってくる。社会科部では学習過程の中に「ひとり学習」「全体学習」を織り交ぜることで、子どもの主体的な学習が期待できると考えた。(もちろん、学習方法だけでなく学習対象も重要な要因を占める。)

本単元「わたしたちの生活と情報」の教材化を考えるにあたっては、上記の条件を兼ね備えると同時に子どもの興味・関心・思い、さらには学習対象を身近に感じることができるとを大切にしたいと考えた。そうすることで子ども一人ひとりの課題に対する追求、いわゆる「ひとり学習」がより主体的になり、社会事象への見方・考え方が育成されると考えるからである。今回は「わかやま新報」の記者である山本明さんに焦点を当て切り込むことで、クラス子ども達が追求する課題をより身近に捉え、学習を進めることができると考える。さらに、「ひとり学習」で個が追求した課題を「全体学習」の場で意見交流する中でクラスの友達の良さを認め、友達の考えを尊重してより高め合うという図式が成り立っていく。また、課題を深く追求するためには自らの既知の手段や教師の支援を駆使した主体的な学習も期待できると考えた。

### (2) 教師の願い

新しい学力観に立つ教育の基本的な考え方は、従前の知識や技能に偏った教育から、子ども一人ひとりが自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力を育成することを重視したものである。この考え方を前提にして社会科の学習を考察してみると、思考力、判断力、表現力などの資質や能力の育成は、教科提案のテーマである「追求し続ける子どもを育てるひとり学習の充実」と関わるのが大である。

さて私自身の学習スタイルを振り返ってみれば、今までは「全体学習」を重視してきた。しかし十分活性化するには至らなかった。その原因としては「全体学習」をより活性化させるための要素が不足していたものと反省する。その要素として全体の場に至る「ひとり学習」の不足が要因として考えられる。つまり、「ひとり学習の段階」をおろそかにしてきた嫌いがある。今回はこの「ひとり学習」の時間を十分に保障することによって子ども一人ひとりが活躍でき、全体学習を充実させたいと考えた。ここで「ひとり学習」を司る要因を考えておかなければならない。その要因として

- ・行き着くところが一つにまとまる教材群であること
- ・一人ひとりが対象に関わっても、一人で歩んでいけるものであること
- ・どれくらいの時間が必要かあらかじめ予想し、物理的な時間の保障をすること

が挙げられる。

本単元では「ひとり学習」・「全体学習」の過程を踏む中で、子どもの学びの姿を確立していくと同時にテーマ「追求し続ける子どもを育てるひとり学習の充実」の検証にあたることにした。

## 2 実践の考察

### (1) 本単元の目標

- ・新聞による情報提供の手段について関心を持ち、新聞社で働く人々の仕事を意欲を持って調べようとする。
- ・新聞社では、情報を速く正確に集めて整理して記事にして発信していることや、そのために取材や編集の仕方を工夫したり、努力したりしている人々がいることに気付くことができる。
- ・新聞記事ができるまでの様子を、新聞社の見学・聞き取りや資料などで調べ、効果的に表現できる。
- ・情報の発達した社会では、必要に応じて情報を取捨選択し、有効に生活に生かすことの大切さについて考えることができる。

### (2) 単元全体の学習の流れ（13時間＋α）

#### 第1次 身の回りにある情報を探そう（1時間）

- ・情報の入手手段を知る

#### 第2次 新聞社の見学に行こう（3時間）

- ・「わかやま新報」に掲載されている記事について調べる
- ・新聞社「わかやま新報」を見学する

#### 第3次 山本明さんに出会おう（2時間）

- ・山本さんに出会う
- ・新聞記者の仕事を知る

#### 第4次 山本さんの願い等について考えよう（6時間＋α）

- ・課題を設定する
- ・課題についてひとり学習をする
- ・課題について話し合う

#### 第5次 振り返ろう（1時間）

### (3) 授業の考察（♠男、◆男、♣女、♥女は着目児）

第1次であるが数ある情報源の中から新聞に結びつけていく導入にあたる時間である。ここではまず「情報」という言葉の意味を理解することから学習を進め、これらの情報をどんな方法で入手しているかを話し合った。「情報」という言葉は普段耳にしてはいるものの、明確に認識している子は少ない。そこで「情報」とはどのようなものであるか具体的に示すことで学習にスムーズに入っていった。さらに子ども達から情報を得るメディアとしてテレビ、インターネット、ラジオ、新聞の答えも返ってきた。次に、それぞれのメディアの長所・短所を調べた。新聞の長所としては忙しい時でも後で読める、自分が分かるまで読むことができる、何回も読むことができる、読みたい時読める。また短所としては情報の届くのが遅い、読みにくい、理解しにくいなどができた。ここまでは教師が予想した内容とほぼ一致し学習を進めることができた。新聞を含め各メディアについて調べてきたことを一覧表にしまとめた。この段階で対象に対する関わりや教材性を加味し、新聞について学習していくことを子供たちに伝える形で本格的に学習が始まった。子ども達も早速家の人に「新聞についてどのように考えているか」について聞いてきた。♣は家の人に対する聞き取りでは長所や短所に加え「今までで新聞が役に立った時は」「新聞を読んで感動したことは」などいくつかの項目を考え聞き取りを行っており新聞の学習に入る段階である程度興味や関心を示してくれた。♥この子もいくつかの項目を設定し父親や母親に聞き取りをしてきた。♠、◆も聞き取りを行って来たが一般的な聞き取りに終わっていた。聞き取りの指

導においては教師からある程度の観点を示すべきか、子どもに任せ行わせるべきか迷った。今回は子供に任せる形で行った所その子その子の個性的な質問が見られた。

第2次では新聞社の見学に行くのであるが、見学に行く前に子どもたちに「めあて」を持たせることから始めた。その手段をとって実際に新聞「わかやま新報」を手に取り「新報」に掲載されている記事に注目して学習を進めた、今までテレビ欄しか目にしなかった子ども達も調べる観点を明確にすることで興味を持ち、新聞に目を通していった。ある程度記事を目にしたところで「新聞を眺めていて疑問に思うところはないか？」と教師から子供たちに投げかけた。すると「記事を書くのにどれくらい時間がかかるのだろう」や「新聞を作るのにどれくらいお金がかかるのだろ」等の疑問がでた。子ども達の中で疑問が整理され新聞社見学が熟成された所で、疑問を解決するために新聞社を訪ねることにした。ただ単に見学に行くのではなく、自分なりのめあてを持って見学に臨めたので、どの子どもも意欲的に見学を行っていた。尚この見学では次時との兼ね合いも考え山本明さんには登場を控えてもらった。

見学後の抽出児の感想によると♥は編集部で記者の人が取材した事を書いていたのを見て、とても大変だなと思いました。との感想を持った。以下♠、◆も「新聞社や新聞記者の仕事は大変だ」と書き記していた。見学や話を聞く中で子どもなりに感じたことを素直に表現していた。ただ、本当に新聞社や新聞記者の立場に立った苦労や努力にはまだ至っていないようである。小学校学習指導要領解説や本単元のねらいである「新聞に従事している人々の工夫や努力を考える」はこれからの学習に委ねることにした。

第3次では第2次の見学を受け実際に現場に立つ新聞記者に出会うことにした。本時では山本明さんをお願いして話を聞かせてもらった。話の内容としては第4次や教師の願いとを関連付けて事前に打ち合わせを行った。具体的な内容としていくつか上げると「わかやま新報はどんな新聞」「記者の七つ道具は」「新聞記者の仕事は」などである。また授業の開始と同時に山本明さんに登場願う訳であるが、ただ単に出会うわけではなく、「山本さんは男性か女性か」「身長はどのくらいあるのか」など山本さんのプロフィールをクイズ形式にして子どもに予想させた。つまり出会いを大切にすることにも心がけた。このこととも関わってかクラスの子も達は山本さんの話に熱心に聞き入った。また、質問も意欲的に行った。♠は「苦情がきて記事を書くのをやめたことがありますか」や「載せられない記事があったら、それをどのようにカバーしていますか」と内情に迫る鋭い質問を行った。♣も山本さんの話しに興味を示し耳を傾けていた。質問内容に関しては「今まで取材した人の中で有名な人はどんな人ですか」と興味本位の質問をしていたが「一日に何時間睡眠を取りますか」等新聞記者の苦労に迫る質問も行っていた。本単元では新聞社の見学と新聞記者との出会いを分けて行った。見学で得た知識を時間をおいて整理できること、子ども達の時間的負担との兼ね合い等考えるとこの方法も一利あるものと考察する。

第4次は「山本さんの願い等について考えよう」と題しているがここではこの学習の中心になる話し合い活動である。新聞社の見学、山本さんの話し、記事作りなどの体験を一通り終えたところで、これから考えていく課題を設定することにした。今回の共通テーマは「わかやま新報は1部80円です。この値段をどう思いますか」とした。このテーマは①クラスの子も達が調べてみたいこととして列挙したことと併せて、②教師の意図すること、さらには先にも述べた③ひとり学習を学習として成立させる要因とも関連づけながら設定した。

今回の社会科の検証項目にもなっている全体学習をどう活性化するかについて考察してみると、新報の値段は高いと思う子はなぜ高いかその理由を明らかにするために、安いと思う子はなぜか自分の考えを説得力あるものにするため、子ども達のひとり調べが始まった。全体学習（意見交流）のための資料集めや意見発表の準備の姿を見ている限りどの子も一生懸命だった。実際の全体学習の場でも自分の考えを言うための資料や準備物があるため子ども達は今までにない態度を見せてくれ授業を盛り上げてくれた。「ひとり学習」の重要性をここで改めて実感した。それと同時にテーマ設定の重要性も改めて痛感した。今回のテーマ設定については先に述べたように①②③の要素が織り込まれている。今後もこの3点のバランスを取りながら設定することに心がけていきたい。4名の着目児についてはノートに聞き取ったことをメモし、発表に必要な資料も用意していた。♠、♣は80円という値段は安い。◆は高い。♥はどちらともいえないとそれぞれ意見が分かれていた。しかし、その子なりに自分の考えを明確にするため、根拠の収集に精を出して努力した。♠は時間をかけて調査するうちに、何があってもすぐに飛び出していかなければいけないことや休日でも取材に行かなければならないとのことを実感として捉えてきたようである。♣は和歌山の情報に拘る理由について追求する姿勢を持ち続け聞き取りを行っていた。◆は和歌山の記事だけしか載っていないので高いという考えであったが、友達の意見を聞いてい

るうちに和歌山の記事に拘る新報の記者の気持ちを考えるようになってきた。意見交流の場ではやはり♣、♠は自分の用意した資料をもとに積極的に発言できた。♥は控えめであった。ノートに今回のための資料は十分に用意していたがやはり実際の中では緊張するのができなかった。そこで教師から意図的に指名をすることを試みた。

高い・安いは子どもの金銭感覚によって違ってくるが、80円という値段には新聞を制作する人々の心がこもっていることに気づいてほしかった。この点についてはひとり学習や全体学習で意見の交流をする中で「A君の話を知っているとほっとするほど」と思い考えが変わってきた。あるいは「調べているうちに考えが変わった」との声が聞こえるなど子どもなりに気づいてくれたようである。また調べる方法として今まではインターネットに頼ることが多かった本クラスの子も達、今回のひとり調べでは新聞社の人、地域の人、家の人、友達に対する聞き取りが中心であった。いわゆる人に関わって調べていく学習方法を中心に展開できた。これは、地域に根ざした教材を取り上げた成果ではないかと考える。

最後に第5次での感想を紹介して本単元の考察を終えたい。

- ♣ 私は新聞を作るのはたいへんだなということがよく分かりました。いつも何気なくテレビらんやまんがの所しか見ていなかったけど、最近は少し中を見るようになったと思います。
- ♠ ~前略~ 今考えてみるとたった8ページの新聞でもとっても苦労しているんだなと感心しました。新聞記者さんにはこれからもがんばってもらいたいです。
- A君 最初はそんなに大変な仕事とは思わなかったけど、勉強しているうちにどれだけ苦労して記事を新聞に取り入れているかよくわかりました。
- H君 ぼくは今まで記者さんたちがどんなことをしているのか、どんな苦労をしているのかあまり気にしていませんでした。でもこの学習をして ~中略~ 記者さんはこんな苦労をしているんだなと思いました。

### 3 今後の課題と展望

ひとり学習の時間をどこでどう確保するかが第一の課題である。今回は社会科の時間は聞き取り調査してきたことの「まとめる時間」、「ひとり学習」は放課後や休日にと、時間の割り振りを明確にした。ただ、現在の子どもの生活事情・生活環境を考えるなら、ひとり学習の時間をどのように確保するべきか考えていかなければならない。第二には発言の少ない児童に対する配慮である。今回の社会科の時間に限らず、どの時間にも控え目な子はいるものである。できるだけ発言できるようにと、また授業を活性化するため「ひとり学習」を行ってきた。以前に比べると成果は見られたもののまだ十分とはいえなかった。このことは社会科の時間に限らず他の教科等の時間でも何らかの方法で取り組んでいかなければならないと思う。

次に本教材についてであるが、子どもの興味関心や実態から考えると情報単元を取り上げるなら「放送」が妥当かと思われた。しかし今回は「新聞」を題材に取り上げ教材化を試みた。地方に拠点を持つ新聞「わかやま新報」の見学や新聞記者である山本明さんや前芝真紀さんをはじめ新報の方々と接する中で回を追う度に子ども達は親しみを持ってアタックしていった。当初私自身が考えていた不安を払拭するかのように子ども達は学習に興味をもっていった。一概に放送だけが情報の単元を扱う教材でないことを実感させてくれた。

### 4 実践研究テーマの設定

子どもが主体的に進める学習の中で、どの子も生かされ生かす授業作り心がけていかなければならないと考える。子どもが主体的に取り組む学習については興味関心だけに終わらず学習価値のある教材開発を心がけなければならない。今回は情報の中で新聞を取り上げたが、今後もこれに変わる身近に子ども達に関わることでできる教材を考えていきたい。また、今回はひとり学習と全体学習を織り込むことで学習の活性化を図る試みをした。ある程度成果が現れたがさらに、ひとり学習における教師の支援はどのようにすべきかを研究してより一層の全体学習における子どもの目の輝きを拝みたいと願う。研究テーマについては引き続き「追求し続ける子どもを育てるひとり学習の充実」と銘打って取り組んでいきたい。